

平成 29 年 11 月 30 日（木）

ないじえる芸術共創ラボ 古典インタプリタ日誌 リーフレット制作に向けて—デザインの素材—

1, ないじえる芸術共創ラボのリーフレット

ないじえる芸術共創ラボの今年度の成果をひろく知っていただくために、活動の様子をまとめたリーフレットを作ろうとしています。

2, 表紙デザインのための素材選び

リーフレットを彩るイラストなどは、当館が所蔵する典籍の中から選びます。特に表紙はリーフレットの「顔」です。手にとってくださった方がハッとするような新鮮さや、中身を開けたくなるような親しみやすさを表現するというコンセプトで、古典籍の中からデザインを集めてみました。

3, 異国の模様

ひとつは、江戸時代に出版された刀剣に関する様々な事項を掲載した『装剣奇賞』¹（1781 年刊）です。本書の巻之六には、印籠や巾着に用いるための輸入革製品の見本が紹介されており、その斬新なデザインが目をひきます（図 1、2）。

¹ <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200007672>

² 山東京伝『二人虚無僧』（1812 年刊）

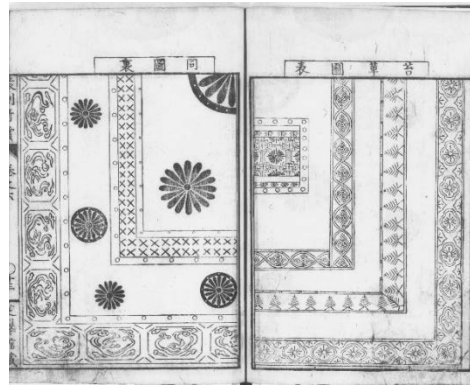


図 1



図 2

そのうちのいくつかは、同時代に出版された草双紙²にも取り入れられており（図 3）³、画面に異国情調を添える効果を担っています。

現代の目からも珍しい図柄が多いのですが、江戸時代の人たちが、舶来品を使ってお洒落を楽しんだり、目新しいデザインとして文学作品に登場させたりしていたことに思いを馳せると、一層楽しく鑑賞することができるのではないのでしょうか。



図 3

³ 『山東京傳全集』合巻 5（ぺりかん社、2014 年）より引用。

平成 29 年 11 月 30 日 (木)

4. ゆるかわな動物たち

もうひとつは、^{くわがたけいさい} 鋏形蕙斎 という絵師が描いた絵の手本である『鳥獣略画式』⁴ (1797 年刊、図 4) です。本書には単純な線と点のみで描かれた動物たちの略画が収められますが、そのゆるいタッチと愛嬌あふれる動物たちの姿が、国文研の教員の間でも人気です。

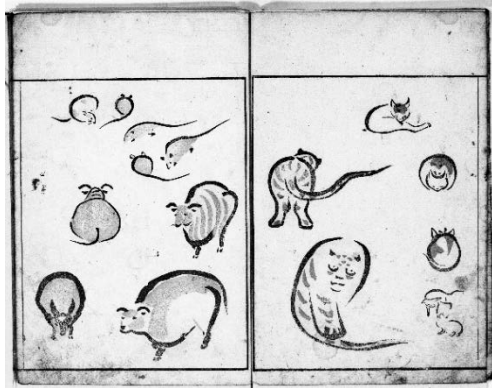


図 4

AIR の山村浩二氏をご覧になった際に、写実的に描くよりもデフォルメして描く方が難しいと仰っていました (10/19 日誌)。デフォルメするためには対象の本質を捉えていなければならないそうで、表情豊かな動物たちの絵をご覧になりながら、「蕙斎は人物よりも動物の方が得意だったのでは」と、描くプロならではの視点からコメントされていました。

⁴ <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200007686>

現代のアーティストが認める“ゆるかわ”な動物たちを、リーフレットのどこに忍ばせようかと考えています。